

問9 次の【Ⅰ群】の記述と【Ⅱ群】の用語を結びつけた場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

【Ⅰ群】

- A ストレス状況に直面したときに、ストレス状況を評価し、対処していこうとすること。
- B 新生児が、自分の母親などの独特の調子やリズムの話しかけに同調して身体を動かすこと。
- C 生体が環境と効果的に相互作用する能力のことで、有能感などと訳される。
- D 幼児が、自己中心的思考のために、見かけに惑わされて正しい判断ができないこと。

【Ⅱ群】

- ア エントレインメント
- イ コーピング
- ウ コンピテンス
- エ フェノメニズム

(組み合わせ)

- | | A | B | C | D |
|---|---|---|---|---|
| 1 | ア | エ | イ | ウ |
| 2 | イ | ア | ウ | エ |
| 3 | イ | エ | ウ | ア |
| 4 | ウ | ア | イ | エ |
| 5 | ウ | イ | エ | ア |

問26 次の文は、乳児期から学童期の自己理解に関する記述である。適切な記述を○、不適切な記述を×とした場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

- A 乳幼児期の自他の分化は、身体的自己の成立を基礎として始まる。
- B 共同注意は、親が自分に何かを伝えようとしていることに気づき、それに同調することで次の新たな働きかけを誘うという点で、身体的自己の発生に不可欠な能力とされる。
- C 幼児期に、仲間との関係に適応していくためには、自己抑制と自己主張との自己調整が必要となる。
- D 学童期の自己意識は、自分の持ち物や身体の特徴などの外面的な捉え方のみによって行われる。
- E 学童期には、個人差に対して仲間から評価されるとともに、自分自身でも仲間と自分とを比較し、自己評価するようになる。

(組み合わせ)

	A	B	C	D	E
1	○	○	×	×	○
2	○	×	○	×	○
3	○	×	×	○	×
4	×	○	×	○	○
5	×	×	○	○	×

問27 次の文は、「心の理論」に関する記述である。（ A ）～（ E ）にあてはまる語句を【語群】から選択した場合の正しい組み合わせを一つ選びなさい。

「心の理論」を獲得しているかどうかを判断するために、（ A ）がよく用いられる。例えば、「Pさんがおもちゃを青い箱に隠して部屋を出て行き、次にQさんが部屋に入って来てそのおもちゃを青い箱から赤い箱へ移し替え、それを知らないPさんが部屋に戻って来る」という劇を子どもに見せ、「（ B ）がおもちゃを取り出すためにどちらの箱を探しますか？」という質問をする。ここで、「（ C ）」と答えれば、子どもは（ B ）という（ D ）の視点に立って考え、その心を（ E ）できていることになり、「心の理論」を獲得していると判断することができる。

【語群】

ア	オペラント条件づけ	イ	推測	ウ	Qさん	エ	第三者
オ	赤い箱	カ	青い箱	キ	誤信念課題	ク	Pさん
ケ	感得	コ	他者				

（組み合わせ）

- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | A | B | C | D | E |
| 1 | ア | ウ | オ | エ | イ |
| 2 | ア | ク | カ | エ | ケ |
| 3 | キ | ウ | カ | エ | イ |
| 4 | キ | ク | オ | コ | ケ |
| 5 | キ | ク | カ | コ | イ |

問39 次の【事例】を読んで、【設問】に答えなさい。

【事例】

Q 保育園の園庭で、A保育士が1本の長い直線を引きました。すると、子どもたちは、線のあちら側とこちら側に分かれてドッジボールを始めました。ドッジボールがひと段落すると、ある子どもたちは、連なって「ガタン、ゴトン、ガタン、ゴトン」と言いながら、線に沿って歩いて遊んでいました。

【設問】

A保育士が引いた1本の長い直線の働きを表す用語として、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 アフォーダンス
- 2 リーチング
- 3 情緒的コンピテンス
- 4 共鳴動作
- 5 ダブルタッチ

問42 次の【図】は、「男女共同参画白書」（平成30年版）における「女性が職業を持つことに対する意識の変化」を示している。以下の【設問】に答えなさい。

【図】

